



★本誌でおなじみダイワの田淵さんが追い食いを狙ってダブル達成



▲当日は石花海の水深130~200メートルを転々と流した



★釣れるオニカサゴの大きさ、数とも石花海は一級の釣り場

▼ハリのチモトに夜光パイプやマシユマロボールを付けるのも効果的

▶夜光系のタコバイトが効いた



◎取り込みは周りと協力してタモでアシストしよう

▼成長がきわめて遅いオニカサゴの資源を守るため、とび島丸では27センチ以下はリリースという独自のルールを設けている



▲青く染めたサバの切り身に食ってきた▼キントキも上がった



▲ウツカリカサゴやユメカサゴも



▲130メートルダチではキダイも釣れた▼50センチ級のアマダイも登場



▲タコも交じった



▼断続的に引き込めばオニカサゴの可能性が高い

▶40センチ級になると胴回りごとポツリしてくる



西伊豆土肥恋人岬出船

撮影◎訓覇啓雄

オニカサゴの大場所 駿河湾、石花海、好スタート



★1キロ弱のアラ。石花海では4キロオーバーも上がっている

この冬、駿河湾石花海のオニカサゴが好スタートを切っている。広大な釣り場だけに数多くのポイントを擁し、西伊豆土肥恋人岬・とび島丸での取材日は水深130〜200メートル前後を攻め、28〜47センチを一人2〜6尾とますまず。さすが駿河湾きっての好釣り場、当日はダブルで良型が掛かってくることも多く魚影の濃さを実感した。オニカサゴは環境のいい場所にある

特工サ探しが面白い!

◎オニカサゴのエサはサバの切り身などが定番ながら、天候や潮具合で食いのいいエサが変わるとされており、カツオのハラモ、アナゴ、イダコ、サケやイシダイの皮などさまざまなエサを持参して特工サを探るのも楽しい。魚の切り身や皮を紅や緑、青に染めるのも効果的だ。

★タコバイトなどアピールアイテムも有効

程度固まっていることが多いため、最初のアタリで巻き上げず、そのまま誘い続けて追い食いを狙うのが釣果をのばすコツだ。(詳細は54ページ参照)



◎西伊豆土肥恋人岬・とび島丸 鈴木 健司船長